

資料4 導入期チェックリストサンプル

氏名 _____

1. 身体的側面

項目	内容	基礎点	結果	備考
全身運動	特に不自然な動きはない。	5	5	
	体幹バランスの悪さがある。	4		
	上肢の動きにバランスの悪さがある。	3		
	下肢の動きにバランスの悪さがある。	2		
	全身の動きにバランスの悪さがある。	1		
手先の器用さ	プラグ・タップの組立作業を30分間当たり10個以上行うことができる。	5	4	※施設の状況に合わせて作業を設定します。
	プラグ・タップの組立作業を30分間当たり7個以上行うことができる。	4		
	プラグ・タップの組立作業を30分間当たり4個以上行うことができる。	3		
	プラグ・タップの組立作業を30分間当たり1個以上行うことができる。	2		
	プラグ・タップの組立作業を行うことができない。	1		
	特別な配慮を行わず調整することができる。	5		
力加減	特別な配慮を行わず調整することができる。	4	3	
	回す角度や回数などの目安を付けることで調整ができる。	3		
	特別な道具（トルクレンチなど）を用いることで調整ができる。	2		
	全く調整することができない。	1		
	指導員がどの位置に立っても模倣動作ができる。	5		
	指導員がどの位置に立っても模倣動作ができるが、正面に立つと戸惑いが見られる。	4		
模倣動作	指導員が横に立つと模倣動作ができる。（正面に立つと、模倣動作が左右逆の動作になる。）	3	2	
	指導員がどの位置に立っても模倣動作ができない。	2		
	指導員のどのような動きも模倣してしまう。	1		
	作業中の無意味な動作はない。	5		
	作業中はないが、休憩中に決められた範囲の場所で無意味な動作がある。	4		
	作業中はないが、休憩中に決められた範囲の場所を超えて無意味な動作がある。	3		
無意味な動作	作業中に自分の持ち場の中で無意味な動作がある。	2	1	
	作業中に自分の持ち場を超えて無意味な動作がある。	1		
	全て把握できている。	5		
	上下の距離感は把握できていない。	4		
ボデイイメージ	前後の距離感も把握できていない。	3	3	
	左右の距離感も把握できてこない。	2		
	把握できていない。	1		

2. 指示理解

項目	内容	基礎点	結果	備考		
指示方法	口頭指示で理解できる。	5	5			
	身振りを加えることで理解できる。	4				
	お手本を示すことで理解できる	3				
	手を添えながらの指導により理解できる。	2				
	追加的指示：板書等の視覚化	1				
	追加的指示：板書等の視覚化＋キーポイントのポイントインテイング	1				
	追加的指示：作業指示書等の利用	1				
	3つの作業指示を実施できる。	5				
	3つの作業指示を1～2度修正することで実施できる。	4				
	2つの作業指示を実施できる。	3				
複数の指示への対応	2つの作業指示を1～2度修正することで実施できる。	2	3			
	1つの作業指示を実施できる。	1				
	2つの抽象的な指示を理解し、行動できる。	5				
	1つの抽象的な指示を理解し、行動できる。	3				
	抽象的な指示を理解し、行動することができない。	1				
	指示した内容を、安定して反復遂行ができる。	5				
	指示した内容を、日が変わると遂行できない。	4				
	指示した内容を、半日経つと遂行できない。	3				
	指示した内容を、休憩を挟むと遂行できない。	2				
	指示した内容を、反復できないまたは勝手に変える。	1				
指示内容の定着	指示したときにすぐに修正ができる。	5	3			
	指示したときに理解にかかると修正できる。	3				
	指示したときに自分の方法に固執し、修正が難しい。	1				
	1度説明すると、自分で手順や段取りを考えて作業できる。	5				
	繰り返し説明することにより、少しずつ手順や段取りを考えることができる。	3				
	手順や段取りが覚えられず、その都度、指示が必要になる。	1				
	不明な点があれば、その都度、質問がある	5				
	タイミングが遅れる事もあるが、不明な点について質問ができる	3				
	質問がないため、作業遂行に影響が出る	1				
	不明な点を的確に質問でき、同じ質問が繰り返されることはない	5				
質問の有無	質問の意図がはっきりしないが、確認する事により意図が把握できる	3	3			
	作業に関係ない質問や、すでに理解しているはずの質問をすることがある	1				
	質問の的確さ	3			3	
		1				
		5				
		3				
		1				
		5				
		3				
		1				
5						
3						

3. 精神的・社会的・職業的側面

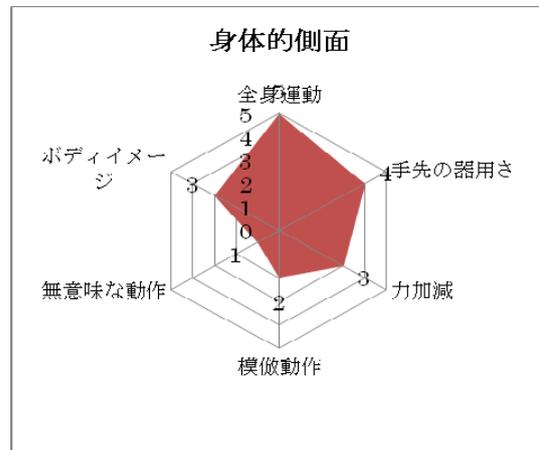
項目	内容	基礎点	結果	備考
精神的な安定	毎日安定している。	5	5	
	指導員が変わっても安定している。	4		
	場所が変わっても安定している。	3		
	スケジュールや手続きが変わっても安定している。	2		
	要求水準が変わることさえ不安定になる。	1		
集中力の維持	1日集中して作業に取り組むことができる。	5	4	
	半日集中して作業に取り組むことができる。	4		
	休憩から休憩まで集中して作業に取り組むことができる。	3		
	1時間くらいは集中して作業に取り組むことができる。	2		
	30分も集中できない。	1		
疲れやすさ	1日の立ち仕事に耐えられる体力がある。	5	3	
	半日の立ち仕事に耐えられる体力があり、訓練によって改善が見込める。	4		
	半日の立ち仕事に耐えられる体力があり、訓練によってある程度改善が見込める。	3		
	立ち仕事は2時間程度が限界であり、訓練しても改善が見込めない。	2		
	立ち仕事ができる体力が無く、訓練しても改善が見込めない。	1		
他者との協力	自ら他者に声をかけ協力して行動できる。	5	2	
	他者に協力して行動できる。	4		
	他者からの指示によって協力して行動できる。	3		
	他者から逐一指示されることで行動できる。	2		
	他者と協力して作業ができない。	1		
暗黙のルールの理解	2つの暗黙のルールを読み取り行動できる。	5	5	
	1つの暗黙のルールを読み取り行動できる。	3		
	暗黙のルールを読み取り行動することができない。	1		
ストレスへの対処	ストレスに自ら気付き、適切に対処できる。	5	3	
	ストレスには気付きにくいですが、助言されるとある程度適切に対処できる。	3		
	ストレスに気付くことができず、助言されても適切に対処できない。	1		
訓練コースへの適応の可能性	バックヤード・店頭関連作業		4	※技能訓練の状況により判断
	物流関連作業		3	
	事務関連作業		1	
	厨房関連作業		2	

4 総合所見

(1) 導入期に把握された状況

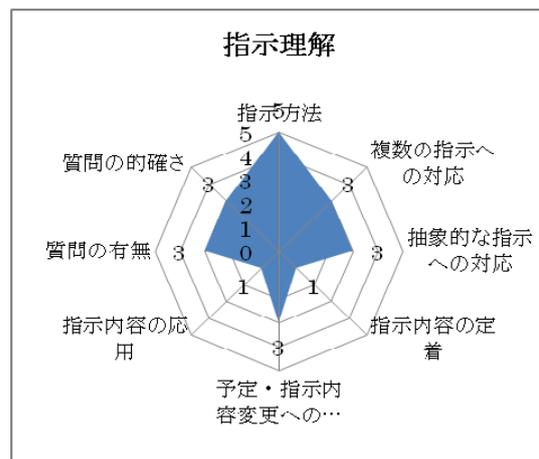
①身体的側面

- ・全身運動としては特に不自然な動きはなく、手先も概ね器用さを備えている。
- ・力加減については回す角度や回数などの目安を付けることで調整ができる。
- ・ただし、ボディイメージについては上下・前後の把握ができていない。また、模倣動作については指導員との立ち位置に関わらず困難であるため、当初は手を添えての指導が必要となる。
- ・常に顔をしかめる動作（チック）が見られるが、緊張や疲労との因果関係は現時点では不明。



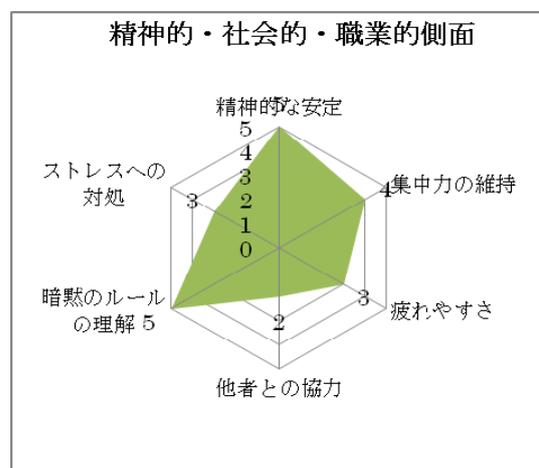
②指示理解

- ・口頭指示により概ね理解できており、簡単なものであれば2つの作業指示にも対応できる。ただし、抽象的な指示対応はひとつが限界。また指示の定着は困難であり、その都度指示する必要がある。
- ・予定や指示内容の変更については、理解に時間はかかるものの特段固執することなく対応できる。
- ・質問については、タイミングは遅れるものの自力で質問できるが、質問の内容については指導者側からの確認が必要。



③精神的・社会的・職業的側面

- ・欠席せず毎日安定して登校できているが、集中して訓練に取り組めるのは半日程度。
- ・現時点での体力は立ち仕事に半日耐えられる程度であるが、訓練によって体力の向上が期待できる。
- ・他者との協力については、自発的に行うことはできないが、他者からの声掛けにより、適切に協力することができる。
- ・日常行動は、他者の動きを見て概ね暗黙のルールを理解し、実践することができる。
- ・ややストレスを溜めやすい傾向にある。また、自身のストレスにも気づきにくい。ただし指導員の助言によりある程度適切に対応できる。



(2) 今後の対応方針

①身体的側面

チック（顔面）があり、原因の特定が困難であるため、改善は難しく、結果として接客作業には難があると思われる。

手先の器用さを活かした作業に適性があるが、ボディイメージの獲得が不十分であるため、身体移動を伴う作業については安全への配慮・工夫（例：指さし確認など動作のルール化）が不可欠である。また、漠然とした力加減が困難であるため、作業に当たっては具体的な指示（例：左に3回まわす）が必要となる。

指導に当たっては、模倣動作が困難であるため、当初は手を添えながらの指導し、手順定着を図ってから作業量を増やすこととする。

②指示理解

身体的側面にある通り、作業方法の習得に当たっては、手を添えての指導が必要であるが、一旦手順を理解すると以後は口頭による指示で概ね動くことができる。ただし、手順の定着自体は困難であるため、毎回指示が必要となる。作業手順書を見て作業が自発的にできるようになれば、就職の可能性は広がると思われる。

質問については、ややタイミングが遅れがちであり、本人の主訴も伝わりにくい。質問すること自体は意欲の表れでもあるため、当面は本人からの質問を待ち、不明瞭な内容については指導員が本人に確認をすることで対応し、徐々にタイミングや適切な質問の仕方の指導を行うことで改善を図ることとする。

③精神的・社会的・職業的側面

欠席なく安定して当校できている点について、適宜本人にフィードバックする（ほめる）ことにより、本人の自信獲得・意欲の継続を図る。

体力的・精神的な耐性にやや課題があるため、技能訓練や体育を通じて徐々に負荷をかけることにより向上を目指す。

他者との協力については受動的ではあるが、協力自体は問題なく行われている。今後は、役割分担をすることにより、自ら考えて行動できるようになることを目指す。

ストレスへの気づき（サインの自覚）を促し、自分自身で対処できるようにするとともに、必要に応じて支援者（訓練中及び就職後）に援助要請できるよう技能訓練場面・職業生活支援場面、通常の訓練生活場面等を通じて実践する。

(3) 総合所見

対人業務や身体移動の多い環境での作業には課題が多くみられる。このため、レジ作業や物流作業はやや困難性が高い。

手先の器用さを活かし、比較的体移動の少ない作業として、ラインでの箱詰めや袋詰め、スーパーでのバックヤード作業などを想定した訓練が適切と思われる。